

吉田町における防潮堤利活用計画

ー地域特性を持つ賑わいの公共空間の創出ー

1.研究の背景と目的

静岡県吉田町では 2020 年 1 月現在、沿岸部にて防潮堤整備事業が進んでいる。この計画に伴い 2018 年 6 月に設置された「吉田町シーガーデンシティ構想推進委員会」に静岡文化芸術大学大学院として参加した。本研究では、この委員会によって決定された方針に準じた利活用計画を提案する。

静岡県では多くの地域で津波対策として防潮堤整備事業が進められている。一方で日常利用の想定が行われておらず、防潮堤の利活用が十分でない。吉田町を本研究の題材と取り扱うことで、津波の危険性のある沿岸部の地域のあり方を研究する。

2.研究対象

研究の対象は、吉田町の都市計画である「吉田町賑わい創出プラン～シーガーデンシティ構想～」で指定された吉田町川尻地区の防潮堤を含む周辺エリアとする(図 1)。多目的広場としてシーガーデンエリアの中心に位置づけて計画を行う。

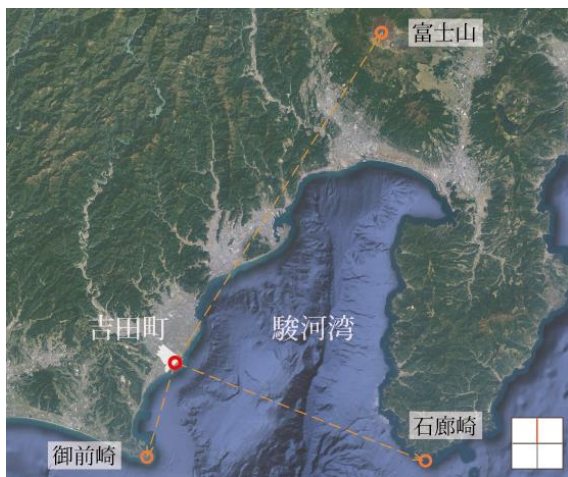


図 1 計画対象範囲

3.吉田町における特性調査

3.1.現況における地域特性

①富士山静岡空港に着陸する飛行機が吉田町上空を通過するため、シーガーデンエリアは空からの景観で意識するポイントである。

②吉田町は防災の取り組みを積極的に行っており、津波避難タワーが海岸沿いに集中している。隣接した牧之原市、焼津市と比較しても一基一基の密度が高い。

③吉田町は駿河湾に面する市、町でも御前崎市に続いて風が強く、特に 11 月から 2 月にかけて冬の時期の風が強い。風向きは年間を通して牧之原台地から吹き降ろす北西の風が多い。

3.2.周辺環境における地域特性

①全長 6km の駿河湾に面する吉田町は駿河湾の形状から御前崎と伊豆半島は見える。また、晴れた日には富士山も見える遠景に優れた景観を有している。

②大井川の河口付近は国内の一級河川と比較して、急勾配であり堆積した砂礫層が見られる。船が入ることができないほど浅いため、川の水面や音が身近に感じやすい河川であると言える。

③全国の防潮堤を比較した際、吉田町の防潮堤は周囲に住宅地が分布している。生活動線が近く、安心安全な防潮堤である。

4.提案

4.1.シーガーデン基本方針

富士山静岡空港や東名高速道路吉田 I.C.から沿岸部を結ぶ海の道を活用し、観光地である小山城や防災拠点である北オアシスパーク

を含めた南北の軸線と計画エリアであるシーガーデンの東西の軸線を合わせて町全体の人の流れを創出する。

シーガーデンエリア全体をエリアごとに分けて幾何学的な計画をすることで飛行機利用者が吉田町を認識する(図2)。植栽や色彩の計画を取り入れることで住宅街の景観と変化が生まれ、シーガーデンエリアを特徴づける。各エリアに適する機能を持たせることによる利用者の流れを喚起させた賑わいの創出を提案する。



図2 シーガーデン構想図

4.2.多目的広場詳細

基本方針に基づき、多目的広場の計画を以下の通りとする(図3)。①景観特性から軸線を取り入れた展望テラス及び展望デッキの計画を行う。また、植栽による防風対策と日よけ可能な休憩スペースなど後援機能を合わせて計画する。②漁港の形状を活かし、町側に対してトリプルテラスを設置する。③住吉海岸と川尻海岸をつなぐ橋を設置する。浚渫船を考慮し、可動橋とする。



図3 多目的広場詳細図

4.3.防潮堤詳細

基本方針に基づき、防潮堤の計画を以下の通りとする。①全長 1.5km、天端幅 8m の防潮堤の高さによる圧迫感を軽減させるための風のゲートを設置する(図4)。②防潮堤の直線性を活かしたサイクリングを含めた人の動線計画に合わせ、海岸で毎年行われている祭りのためのスロープの整備を行う。③長い距離と傾斜を利用したオリーブの栽培を計画する。

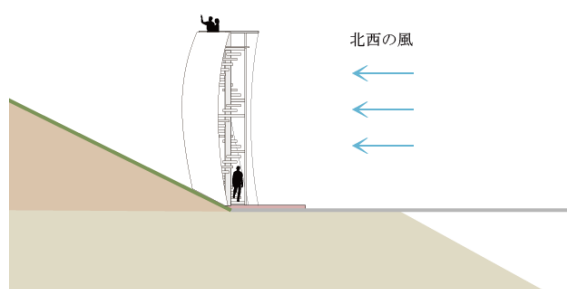


図4 風のゲート

4.4.大井川エリア詳細

基本方針に基づき、大井川エリアの計画を以下の通りとする。①上空から幾何学模様となるように既存の県営吉田公園の周囲の整備と三角のエリアをレジャーゾーンとして計画する。②高さのある丘「吉田富士」を計画し、周囲からの景観を創出する。③大井川と町の距離を近づける場所として栈橋を計画する。合わせて、バードウォッチングが可能な場所として、野鳥観察小屋を計画する(図5)。

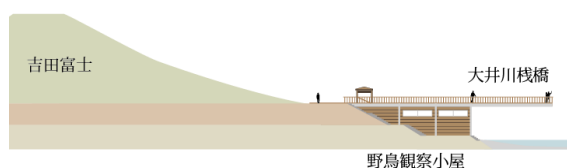


図5 吉田富士/大井川栈橋